

連合平和行動in沖縄

2018年6月23～25日まで連合平和行動in沖縄に磯崎部長とともに参加して参りました。

1日目の連合2018平和オキナワ集会では、基調講演としてフリージャーナリストの屋良朝博氏から「沖縄基地問題について」というテーマでお話を聞きました。

沖縄になぜこれだけの米軍基地が集中しているのか、その歴史的な背景と現地沖縄県民の皆さんが抱える不安と怒りについて、わかりやすく解説をいただきました。

そのご第二部として平和式典が開催され、神津連合会長や謝花副知事から挨拶を受け、「平和メッセージ」や広島へのピースリレーがおこなわれ、式典は終了しました。



2日目のピース・フィールドワークでは、連合沖縄青年委員会の皆様に「辺野古基地」「嘉手納基地」「チビチリガマ」「嘉数高台（普天間基地）」を案内して頂きました。

普段テレビや新聞で見聞きしている基地の周辺に実際に行ってみると、そのスケールの大きさや飛行機の爆音を肌で感じ、圧倒されました。





特に嘉数高台から一望した普天間基地は、宜野湾市の中央部に位置し、航空機騒音の発生や墜落の危険性を抱える基地問題の象徴のような存在であることは、報道等で知っていましたが、実際に肉眼で確認すると、過去にヘリコプターの墜落事故が発生した場所も住宅地に近接しており、問題の深刻さを実感しました。

また、チビチリガマでは73年前の6月に集団自決の悲劇がおこりましたが、ガマの入り口に立ってみると何とも言えない感情がこみ上げてきました。黙とうを捧げ、二度と戦争を起こしてはならないという思いを新たにしました。そして、現在も日本の平和を阻害する様々な問題がありますが、無関心に政治に任せるだけでなく、今後は自分自身でも平和について真剣に考えていきたいと思えます。

今回、初めて平和行動in沖縄に参加させていただきました。このような機会を頂けたことに改めて感謝させていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

記事：徳留 宏光